

洪水予報 XML の解説

洪水予報 XML の構成と各タグの解説を以下に示す。なお、<Body>部の内容は、一部またはすべてを省略する場合がある。

1 全体構成

<Report>

- └ <Control> 伝送情報部
- └ <Head> ヘッダー部
- └ <Body> ボディ一部

2 各部の構成と内容

(1) Control 部

① Control 部の構成

Control

- └ Title 情報名称
- └ DateTime 発表時刻
- └ Status 運用種別
- └ EditorialOffice 編集官署名
- └ PublishingOffice 発表官署名

② Control 部の詳細

タグ	解説
Title	「情報名称」“指定河川洪水予報”で固定。
DateTime	「発表時刻」協定世界時で記載する。未来時刻にはならない。“2008-08-29T00:10:00Z”のように記載。
Status	「運用種別」“通常”“訓練”“試験”のいずれかを記載。
EditorialOffice	「編集官署名」気象庁側で主に予報作業を行った官署名を記載。
PublishingOffice	「発表官署名」編集官署を含むすべての共同発表官署名を“下館河川事務所 水戸地方気象台 宇都宮地方気象台”のように xs:list 型で記載。

(2) Head 部

① Head 部の構成

Head

- └ Title 標題
- └ ReportDateTime 発表時刻
- └ TargetDateTime 基点時刻
- └ EventID 識別情報
- └ InfoType 情報形態
- └ Serial 情報番号
- └ InfoKind スキーマの運用種別情報
- └ InfoKindVersion スキーマの運用種別のバージョン情報
- └ Headline 見出し要素

② Head 部の詳細

タグ	解説
Title	「標題」“小貝川氾濫注意情報”のように本情報の具体的な内容を示す標題を記載。
ReportDateTime	「発表時刻」本情報の公式な発表時刻を記載。“2008-08-29T09:10:00+09:00”のように日本標準時で記載。
TargetDateTime	「基点時刻」本情報の対象となる基点時刻を記載。“2008-08-29T09:10:00+09:00”のように日本標準時で記載。
EventID	「識別情報」指定河川洪水予報（予報区域）コード等を記載。
InfoType	「情報形態」“発表”“訂正”“取消”のいずれかを記載。
Serial	「情報番号」情報の発表番号を記載。
InfoKind	「スキーマの運用種別情報」“指定河川洪水予報”で固定。
InfoKindVersion	「スキーマの運用種別のバージョン情報」本解説のバージョン番号は“1.1_1”。
Headline	「見出し要素」Headline の構成は③を参照。

③ Headline の詳細

タグ	解説
Headline	
└ Text	「見出し文」見出しの内容を記載。
└ Information	以下は type 属性が“指定河川洪水予報（予報区域）”の場合。
└ Item	
└ Kind	
└ Name	「防災気象情報要素名」洪水予報の標題（“氾濫注意情報”など）を記載。
└ Code	「防災気象情報要素コード」 洪水予報の標題＋洪水予報の種類に対応するコード（表1）を記載。
└ Condition	「状況」洪水予報の種類（“洪水注意報”“洪水警報”）を記載。さらに該当する場合には、続けて“（発表）” “解除” “（警報解除）”を記載。

└ Areas	codeType 属性は“指定河川洪水予報（予報区域）”と記載。
└ Area	
└ Name	「対象予報区域名称」対象となる予報区域（標題河川）名称を記載。
└ Code	「対象予報区域コード」対象となる予報区域（標題河川）コードを記載。
└ Information	以下は type 属性が“指定河川洪水予報（河川）”の場合。
└ Item	
└ Kind	
└ Name	上述の Information[@type=“指定河川洪水予報（予報区域）”]と同じ内容を記載。
└ Code	
└ Condition	
└ Areas	codeType 属性は“河川”と記載。
└ Area	対象となる河川の数だけ出現する。
└ Name	「対象河川名称」対象となる河川名称を記載。
└ Code	「対象河川コード」河川コードを記載。
└ Information	以下は type 属性が“指定河川洪水予報（府県予報区等）”の場合。
└ Item	
└ Kind	
└ Name	上述の Information[@type=“指定河川洪水予報（予報区域）”]と同じ内容を記載。
└ Code	
└ Condition	
└ Areas	codeType 属性は“気象情報／府県予報区・細分区域等”と記載。
└ Area	対象府県予報区の数だけ出現する。
└ Name	「対象府県予報区名称」対象となる府県予報区名称を記載。
└ Code	「対象地域コード」対象となる府県予報区コードを記載。

(表1) <Information/Item/Kind>のコード・要素対応表

Name	Code	Condition
氾濫注意情報解除	10	洪水注意報解除
氾濫注意情報	20	洪水注意報(発表)
氾濫注意情報	21	洪水注意報
氾濫注意情報(警戒情報解除)	22	洪水注意報(警報解除)
氾濫警戒情報	30	洪水警報(発表)
氾濫警戒情報	31	洪水警報
氾濫危険情報	40	洪水警報(発表)
氾濫危険情報	41	洪水警報
氾濫発生情報	51	洪水警報
氾濫発生情報(氾濫水の予報)	53	洪水警報

(3) Body 部

① Body 部の構成

Body

- └ Notice お知らせ
- └ Warning 警報・注意報事項の内容
- └ MeteorologicalInfos 予報や観測に関する事項
- └ OfficeInfo 担当部署に関する事項
- └ AdditionalInfo 付加事項

② Notice の詳細

お知らせの文章を記述する。

③ Warning の詳細

主文や浸水想定地区について、ここに記述する。注意・警戒事項の内容は<Item>を大きなまとまりとして列挙する。つまり、主文、浸水想定地区、浸水想定地区（氾濫発生情報）を記述する場合でそれぞれ分けられる。浸水想定地区、浸水想定地区（氾濫発生情報）の区別は<Kind/Name>で判別できる。

タグ	解説
Warning	type 属性には“指定河川洪水予報”と記載。
└ Item	「注意・警戒事項の内容」（以下は主文を記載する場合）主文の数だけ出現する。
└ Kind	
└ Property	
└ Type	“主文”と記載。
└ Text	主文の内容を記載。
└ Areas	「対象となる観測所が設置されている河川」codeType 属性には“河川”と記載。

	主文を省略するときなど、記述しない場合もある。
└ Area	
└ Name	河川名称を記載。
└ Code	河川コードを記載。
└ Stations	「対象となる観測所」 主文を省略するときなど、記述しない場合もある。
└ Station	
└ Name	対象となる観測所名称を記載。
└ Code	type 属性には“水位観測所”と記載。対象となる観測所コードを記載。
└ Location	観測所の位置を記載。
└ Item	「注意・警戒事項の内容」（以下は浸水想定地区を記述する場合）
└ Kind	
└ Name	“浸水想定地区”と記載。
└ Code	Name に対応するコード（“1”）を記載。
└ Status	“対象地域”と記載。
└ Property	
└ Type	“浸水想定地区”と記載。
└ Text	浸水想定地区に対する説明を記載する。
└ Areas	「対象となる観測所」
└ Area	codeType 属性には“水位観測所”と記載。 対象となる観測所の数だけ出現する。
└ Name	対象となる地域を受け持つ観測所名称を記載。
└ Code	観測所コードを記載。
└ Prefecture	対象となる県の名称を記載。
└ PrefectureCode	対象となる県のコードを記載。

└ City	対象となる市町村の名称を記載。
└ CityCode	対象となる市町村のコードを記載。
└ SubCityList	対象となる地域・地区の名称を記載。
└ Item	「注意・警戒事項の内容」（以下は氾濫発生時の浸水想定地区を記載する場合）
└ Kind	
└ Name	“浸水想定地区（氾濫発生情報）”と記載。
└ Code	Nameに対応するコード（“2”）を記載。
└ Status	“対象地域”と記載。
└ Property	
└ Type	“浸水想定地区（氾濫発生情報）”と記載。
└ Text	浸水想定地区に対する説明を記載。
└ Areas	「対象となる地域・地区」
└ Area	対象となる地域の数だけ出現する。
└ Name	対象となる地域の府県名＋市町村名を記載。（Code タグは記述しない）
└ Prefecture	対象となる県の名称を記載。
└ PrefectureCode	対象となる県のコードを記載。
└ City	対象となる市町村の名称を記載。
└ CityCode	対象となる市町村のコードを記載。
└ SubCityList	対象となる地域・地区の名称を記載。

(例) 情報の主文、対象となる河川と水位観測所を記述する場合

```
<Item>
  <Kind>
    <Property>
      <Type>主文</Type>
      <Text>【警戒レベル3相当】これは、高齢者等避難の発令の目安です。〇〇川の〇〇水位観測所（〇〇市〇〇）では、〇〇日〇〇時頃に、「氾濫危険水位」に到達する見込みで、今後、避難指示の発令の目安である警戒レベル4相当となる可能性があります。〇〇川では堤防決壊等による氾濫のおそれがあり、〇〇市、〇〇市、〇〇町では浸水するおそれがあります。市町村からの避難情報に十分注意するとともに、適切な防災行動をとって下さい。</Text>
    </Property>
  </Kind>
  <Areas>
    <Area>
      <Name>〇〇川</Name>
      <Code>1234567890</Code>
    </Area>
  </Areas>
  <Stations>
    <Station>
      <Name>〇〇水位観測所</Name>
      <Code type="水位観測所">12345678901234567</Code>
      <Location>〇〇市</Location>
    </Station>
  </Stations>
</Item>
```

注：標題と警戒レベルとの関係は、末尾の参考部分の記述を参照。

また、浸水が想定される地区を記載する場合、氾濫の発生の前後で<Name>や<Code>を変え、以下のように記述する。

(例) 氾濫発生前、浸水が想定される地域を記述する場合

```
<Item>
  <Kind>
    <Name>浸水想定地区</Name>
    <Code>1</Code>
    <Status>対象地域</Status>
    <Property>
      <Type>浸水想定地区</Type>
      <Text>氾濫による浸水が想定される地区※</Text>
    </Property>
  </Kind>
  <Areas>
    <Area codeType="水位観測所">
      <Name>〇〇〇水位観測所</Name>
      <Code>0000000000000000</Code>
      <Prefecture>〇〇県</Prefecture>
      <PrefectureCode>00000</PrefectureCode>
      <City>〇〇市</City>
      <CityCode>0000000</CityCode>
      <SubCityList>〇〇地区 〇〇地区 〇〇地区</SubCityList>
    </Area>
    <Area codeType="水位観測所">
      <Name>□□□水位観測所</Name>
      <Code>0000000000000000</Code>
      <Prefecture>□□県</Prefecture>
      <PrefectureCode>00000</PrefectureCode>
      <City>□□市</City>
      <CityCode>0000000</CityCode>
      <SubCityList>-</SubCityList>
    </Area>
  </Areas>
</Item>
```

注：氾濫発生前における「氾濫による浸水が想定される地区」は、一定の条件に基づいてあらかじめ計算した推定結果である。気象条件や堤防の決壊の状況によっては、この地区以外でも氾濫による浸水がおこる可能性がある。

(例) 氾濫発生時に浸水が想定される地域を記述する場合

```
<Item>
  <Kind>
    <Name>浸水想定地区（氾濫発生情報）</Name>
    <Code>2</Code>
    <Status>対象地域</Status>
    <Property>
      <Type>浸水想定地区（氾濫発生情報）</Type>
      <Text>○×地点からの氾濫による浸水が想定される地区は以下のとおりです。※</Text>
    </Property>
  </Kind>
  <Areas>
    <Area>
      <Name>〇〇県〇〇市</Name>
      <Prefecture>〇〇県</Prefecture>
      <PrefectureCode>00000</PrefectureCode>
      <City>〇〇市</City>
      <CityCode>0000000</CityCode>
      <SubCityList>〇〇地区 〇〇地区 〇〇地区</SubCityList>
    </Area>
    <Area>
      <Name>□□県□□市</Name>
      <Prefecture>□□県</Prefecture>
      <PrefectureCode>00000</PrefectureCode>
      <City>□□市</City>
      <CityCode>0000000</CityCode>
      <SubCityList>-</SubCityList>
    </Area>
  </Areas>
</Item>
```

注：氾濫発生時における「氾濫による浸水が想定される地区」は、氾濫が確認された地点からの一定の条件に基づく氾濫水の予想による推定結果である。気象条件や堤防の決壊の状況によっては、この地区以外でも氾濫による浸水がおこる可能性がある。

④ MeteorologicalInfos の詳細

雨量、水位・流量、氾濫水の予報について、その観測や予報内容を記述する。

(a) 雨量情報を記述する場合

タグ	解説
MeteorologicalInfos	type 属性には“雨量情報”と記載。
└ MeteorologicalInfo	
└└ DateTime	「予報・観測の基点時刻」
└└ Item	「予報・観測の内容」
└└└ Kind	
└└└ Name	“雨量”と記載。
└└└ Property	
└└└ Type	“雨量”と記載。
└└└ Text	雨量の予報・観測文を記載。
└ TimeSeriesInfo	「時系列情報」時系列の定義の数だけ出現する。
└└ TimeDefines	「時系列の時刻定義セット」
└└└ TimeDefine	「個々の時刻定義」
└└└└ DateTime	「予報・観測の基点時刻」
└└└└ Duration	「予報・観測の対象期間」
└└└└ Name	予報・観測期間の内容を記載。
└└└ Item	「予報・観測の内容」流域ごとに<Item>で括って記載。
└└└└ Kind	
└└└└ Name	“雨量”と記載。
└└└└ Property	
└└└└ Type	“雨量”と記載。
└└└└ PrecipitationPart	

└ jmx_eb:Precipitation	type 属性には“流域平均雨量”と記載。流域平均雨量の観測・予測値を記載。
└ Area	
└ Name	対象となる流域名を記載。

(b) 水位・流量情報を記述する場合

タグ	解説
MeteorologicalInfos	type 属性には“水位・流量情報”と記載。
└ TimeSeriesInfo	「時系列情報」
└ TimeDefines	「時系列の時刻定義セット」
└ TimeDefine	「個々の時刻定義」時刻定義の数だけ出現する。 国管理河川は6時間先まで1時間ごと、都道府県管理河川の多くは3時間先まで1時間ごとに記述する。
└ DateTime	「予報・観測の基点時刻」
└ Name	予報・観測期間の内容を記載。
└ Item	「予報・観測の内容」観測点ごとに<Item>で括って記載。
└ Kind	
└ Name	“水位” または “流量” と記載。
└ Property	
└ Type	“水位” または “流量” と記載。
└ WaterLevelPart	水位の場合
└ jmx_eb:WaterLevel	水位・危険度レベルの実況・予測値を記載。 type 属性には“水位” または “レベル” と記載。 condition 属性には水位実況変化傾向や実況・予測値の状況を記載。
└ DischargePart	流量の場合
└ jmx_eb:Discharge	流量・危険度レベルの実況・予測値を記載。

	type 属性には“流量”または“レベル”と記載。 condition 属性には流量実況変化傾向や実況・予測値の状況を記載。
└ Station	
└ Name	対象となる水位・流量観測所名を記載。
└ Code	type 属性には“水位観測所”と記載。対象となる水位・流量観測所コードを記載。
└ Location	観測所の位置を記載。

(c) 氾濫水の予報を記述する場合

タグ	解説
MeteorologicalInfos	type 属性には“氾濫水の予報”と記載。
└ MeteorologicalInfo	氾濫水の予報の数だけ出現する。
└ DateTime	「予報の基点時刻」
└ Item	「氾濫水の予報の内容」
└ Kind	
└ Name	“氾濫水”と記載。
└ Property	
└ Type	“氾濫水”と記載。
└ FloodAssumptionTable	
└ Area	codeType 属性には“河川”と記載。
└ Name	対象となる河川名を記載。
└ Code	対象となる河川コードを記載。
└ FloodAssumptionPart	
└ FloodAssumptionArea	「浸水区域」
└ AttainmentTime	「氾濫水到達時刻」 description 属性で時刻の内容を記載。

└ jmx_eb:FloodDepth	「浸水深」 type 属性は“想定最大浸水深”と記載。bound 属性には“以上”や“未満”と記載し、その要素の数だけ出現する。
└ AttainmentDeepestTime	「氾濫水最深時刻」 description 属性で時刻の内容を記載。
└ Text	氾濫水の予報に対する説明文を記載する。

(例) 雨量の実況及び予測を記述する場合

```

<MeteorologicalInfos type="雨量情報">
  <MeteorologicalInfo>
    <DateTime>2010-02-27T09:00:00+09:00</DateTime>
    <Item>
      <Kind>
        <Name>雨量</Name>
        <Property>
          <Type>雨量</Type>
          <Text>所により 1 時間に 50 ミリの雨が降っています。今後もこの雨は降り続く見込みです。</Text>
        </Property>
      </Kind>
    </Item>
  </MeteorologicalInfo>
  <TimeSeriesInfo>
    <TimeDefines>
      <TimeDefine timeId="1">
        <DateTime>2010-02-27T03:00:00+09:00</DateTime>
        <Duration>PT6H</Duration>
        <Name>27日3時から27日9時までの流域平均雨量</Name>
      </TimeDefine>
      <TimeDefine timeId="2">
        <DateTime>2010-02-27T09:00:00+09:00</DateTime>
        <Duration>PT3H</Duration>
        <Name>27日9時から27日12時までの流域平均雨量の見込み</Name>
      </TimeDefine>
    </TimeDefines>
  </TimeSeriesInfo>

```

```
<Item>
  <Kind>
    <Name>雨量</Name>
    <Property>
      <Type>雨量</Type>
      <PrecipitationPart>
        <jmx_eb:Precipitation type="流域平均雨量" unit="ミリ" refID="1">000</jmx_eb:Precipitation>
        <jmx_eb:Precipitation type="流域平均雨量" unit="ミリ" refID="2">000</jmx_eb:Precipitation>
      </PrecipitationPart>
    </Property>
  </Kind>
  <Area>
    <Name>〇〇川上流</Name>
  </Area>
</Item>
</TimeSeriesInfo>
</MeteorologicalInfos>
```


(例) 水位の実況及び予測を記述する場合

```
<MeteorologicalInfos type="水位・流量情報">
  <TimeSeriesInfo>
    <TimeDefines>
      <TimeDefine timeId="1">
        <DateTime>2010-02-27T09:00:00+09:00</DateTime>
        <Name>現況</Name>
      </TimeDefine>
      <TimeDefine timeId="2">
        <DateTime>2010-02-27T10:00:00+09:00</DateTime>
        <Name>1 時間後</Name>
      </TimeDefine>
      <TimeDefine timeId="3">
        <DateTime>2010-02-27T11:00:00+09:00</DateTime>
        <Name>2 時間後</Name>
      </TimeDefine>
      <TimeDefine timeId="4">
        <DateTime>2010-02-27T12:00:00+09:00</DateTime>
        <Name>3 時間後</Name>
      </TimeDefine>
      <TimeDefine timeId="5">
        <DateTime>2010-02-27T13:00:00+09:00</DateTime>
        <Name>4 時間後</Name>
      </TimeDefine>
      <TimeDefine timeId="6">
        <DateTime>2010-02-27T14:00:00+09:00</DateTime>
        <Name>5 時間後</Name>
      </TimeDefine>
      <TimeDefine timeId="7">
        <DateTime>2010-02-27T15:00:00+09:00</DateTime>
        <Name>6 時間後</Name>
      </TimeDefine>
    </TimeDefines>
    <Item>
      <Kind>
        <Name>水位</Name>
      </Kind>
    </Item>
  </TimeSeriesInfo>
</MeteorologicalInfos>
```

```
<Property>
  <Type>水位</Type>
  <WaterLevelPart>
    <jmx_eb:WaterLevel type="水位" unit="m" refID="1" condition="上昇">143.00</jmx_eb:WaterLevel>
    <jmx_eb:WaterLevel type="レベル" refID="1">2</jmx_eb:WaterLevel>
    <jmx_eb:WaterLevel type="水位" unit="m" refID="2" condition="正常">144.80</jmx_eb:WaterLevel>
    <jmx_eb:WaterLevel type="レベル" refID="2">3</jmx_eb:WaterLevel>
    <jmx_eb:WaterLevel type="水位" unit="m" refID="3" condition="正常">145.00</jmx_eb:WaterLevel>
    <jmx_eb:WaterLevel type="レベル" refID="3">4</jmx_eb:WaterLevel>
    <jmx_eb:WaterLevel type="水位" unit="m" refID="4" condition="正常">144.80</jmx_eb:WaterLevel>
    <jmx_eb:WaterLevel type="レベル" refID="4">3</jmx_eb:WaterLevel>
    <jmx_eb:WaterLevel type="水位" unit="m" refID="5" condition="正常">144.90</jmx_eb:WaterLevel>
    <jmx_eb:WaterLevel type="レベル" refID="5">3</jmx_eb:WaterLevel>
    <jmx_eb:WaterLevel type="水位" unit="m" refID="6" condition="正常">145.00</jmx_eb:WaterLevel>
    <jmx_eb:WaterLevel type="レベル" refID="6">4</jmx_eb:WaterLevel>
    <jmx_eb:WaterLevel type="水位" unit="m" refID="7" condition="正常">145.10</jmx_eb:WaterLevel>
    <jmx_eb:WaterLevel type="レベル" refID="7">4</jmx_eb:WaterLevel>
  </WaterLevelPart>
</Property>
</Kind>
<Station>
  <Name>〇〇〇水位観測所</Name>
  <Code type="水位観測所">0000000000000000</Code>
  <Location>〇〇市〇〇</Location>
</Station>
</Item>
</TimeSeriesInfo>
</MeteorologicalInfo>
```

(例) 氾濫水の予報を記述する場合

```
<MeteorologicalInfos type="氾濫水の予報">
  <MeteorologicalInfo>
    <DateTime>2010-02-27T09:00:00+09:00</DateTime>
    <Item>
      <Kind>
        <Name>氾濫水</Name>
        <Property>
          <Type>氾濫水</Type>
          <FloodAssumptionTable>
            <Area codeType="河川">
              <Name>〇〇川</Name>
              <Code>0000000000</Code>
            </Area>
            <FloodAssumptionPart>
              <FloodAssumptionArea>〇市市役所</FloodAssumptionArea>
              <AttainmentTime description="2 時間後" dubious="頃">2010-02-27T11:00:00+09:00</AttainmentTime>
              <jmx_eb:FloodDepth type="想定最大浸水深" unit="m" bound="以上">0</jmx_eb:FloodDepth>
              <jmx_eb:FloodDepth type="想定最大浸水深" unit="m" bound="未満">0.5</jmx_eb:FloodDepth>
              <AttainmentDeepestTime description="3 時間後" dubious="頃">2010-02-27T12:00:00+09:00</AttainmentDeepestTime>
            </FloodAssumptionPart>
          </FloodAssumptionTable>
          <Text>〇×地点からの氾濫により想定される浸水区域、浸水深、氾濫水の到達時刻は以下のとおりです。</Text>
        </Property>
      </Kind>
    </Item>
  </MeteorologicalInfo>
</MeteorologicalInfos>
```

⑤ OfficeInfo の詳細

タグ	解説
OfficeInfo	「担当官署」
└ Office	Type 属性には“水位関係”または“気象関係”と記載。官署の数だけ出現する。
└ Name	担当官署の名称を記載。
└ Code	担当官署コードを記載。
└ ContactInfo	担当官署の連絡先を記載。
└ URI	参考となる URI を記載。

(例) OfficeInfo の記述例

```

<OfficeInfo>
  <Office type="水位関係">
    <Name>下館河川事務所</Name>
    <Code>67629</Code>
    <ContactInfo>国土交通省関東地方整備局下館河川事務所調査課 xxx-xxx-xxxx</ContactInfo>
    <URI>https://www.river.go.jp</URI>
  </Office>
  <Office type="気象関係">
    <Name>水戸地方气象台</Name>
    <Code>47629</Code>
    <ContactInfo>気象庁水戸地方气象台 xxx-xxx-xxxx</ContactInfo>
    <URI>https://www.jma.go.jp</URI>
  </Office>
  <Office type="気象関係">
    <Name>宇都宮地方气象台</Name>
    <Code>47615</Code>
    <ContactInfo>気象庁宇都宮地方气象台 xxx-xxx-xxxx</ContactInfo>
    <URI>https://www.jma.go.jp</URI>
  </Office>
</OfficeInfo>

```

⑥ AdditionalInfoの詳細

タグ	解説
AdditionalInfo	「参考資料」
└ FloodForecastAddition	
└ HydrometricStationPart	「水位観測所の受け持ち区間と基準の諸要素」観測所の数だけ出現する。
└ Area	type 属性には“水位観測所”と記載。
└ Name	水位・流量観測所名称を記載。
└ Code	水位・流量観測所コードを記載。
└ SubCityList	浸水が想定される地区を記載。
└ Location	水位・流量観測所の所在地を記載。
└ ChargeSection	水位・流量観測所の受け持ち区間を記載。 受け持ち区間の数だけ出現する。
└ Criteria	
└ jmx_eb:WaterLevel	水位基準の値を記載。condition 属性に基準の有効・無効を記載。
└ jmx_eb:Discharge	流量基準の値を記載。condition 属性に基準の有効・無効を記載。

(例) AdditionalInfoの記述例

水位観測所の場合

```

<AdditionalInfo>
  <FloodForecastAddition>
    <HydrometricStationPart>
      <Area codeType="水位観測所">
        <Name>黒子</Name>
        <Code type="水位観測所">12345678901234567</Code>
        <SubCityList>茨城県つくば市〇〇地区 茨城県筑西市〇〇地区</SubCityList>
        <Location>茨城県筑西市西保未</Location>
      </Area>
    </HydrometricStationPart>
  </FloodForecastAddition>
</AdditionalInfo>

```

```

</Area>
<ChargeSection>小貝川受け持ち区間
左岸 茨城県筑西市から茨城県つくば市
右岸 茨城県筑西市から茨城県下妻市</ChargeSection>
<ChargeSection>大谷川受け持ち区間
左岸 茨城県筑西市から小貝川への合流点
右岸 茨城県筑西市から小貝川への合流点</ChargeSection>
<Criteria>

  <jmx_eb:WaterLevel type="レベル1水防団待機水位" unit="m" condition="有効">x.xx</jmx_eb:WaterLevel>
  <jmx_eb:WaterLevel type="レベル2氾濫注意水位" unit="m" condition="有効">x.xx</jmx_eb:WaterLevel>
  <jmx_eb:WaterLevel type="レベル3避難判断水位" unit="m" condition="有効">x.xx</jmx_eb:WaterLevel>
  <jmx_eb:WaterLevel type="レベル4氾濫危険水位" unit="m" condition="有効">x.xx</jmx_eb:WaterLevel>
  <jmx_eb:WaterLevel type="レベル4計画高水位等" unit="m" condition="有効">x.xx</jmx_eb:WaterLevel>
</Criteria>
</HydrometricStationPart>

</FloodForecastAddition>
</AdditionalInfo>

```

流量観測所の場合

```

<AdditionalInfo>
  <FloodForecastAddition>
    <HydrometricStationPart>
      <Area codeType="水位観測所">
        <Name>〇〇</Name>
        <Code>23456789012345678</Code>
        <SubCityList>〇〇県〇〇市〇〇地区 〇〇県〇〇市〇〇地区 〇〇県〇〇市〇〇地区</SubCityList>
        <Location>〇〇郡〇〇町〇〇</Location>
      </Area>
      <ChargeSection>〇〇川
      左岸：〇〇町、〇〇町、〇〇市
      右岸：〇〇町、〇〇町、〇〇町、〇〇市</ChargeSection>
    <Criteria>

```

```
<jmx_eb:Discharge type="レベル1水防団待機流量" unit="立方メートル毎秒" condition="有効">x.xx</jmx_eb:Discharge>
<jmx_eb:Discharge type="レベル2氾濫注意流量" unit="立方メートル毎秒" condition="有効">x.xx</jmx_eb:Discharge>
<jmx_eb:Discharge type="レベル3避難判断流量" unit="立方メートル毎秒" condition="有効">x.xx</jmx_eb:Discharge>
<jmx_eb:Discharge type="レベル4氾濫危険流量" unit="立方メートル毎秒" condition="有効">x.xx</jmx_eb:Discharge>
<jmx_eb:Discharge type="レベル4計画高水流量等" unit="立方メートル毎秒" condition="有効">x.xx</jmx_eb:Discharge>
</Criteria>
</HydrometricStationPart>
</FloodForecastAddition>
</AdditionalInfo>
```

(参考：警戒レベルとの対応)

標題と警戒レベルとの関係は以下のとおりです。

洪水予報の標題 (種類)	発表基準	市町村・住民に求める行動の段階
〇〇川氾濫発生情報 (洪水警報)	氾濫の発生 (氾濫水の予報※)	氾濫水への警戒を求める段階 【警戒レベル5相当】
〇〇川氾濫危険情報 (洪水警報)	急激な水位上昇によりまもなく氾濫危険水位を超え、さらに水位の上昇が見込まれる場合、あるいは氾濫危険水位に到達した場合	いつ氾濫してもおかしくない状態 避難等の氾濫発生に対する対応を求める段階 【警戒レベル4相当】
〇〇川氾濫警戒情報 (洪水警報)	一定時間後に氾濫危険水位に到達が見込まれる場合、あるいは避難判断水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求める段階 【警戒レベル3相当】
〇〇川氾濫注意情報 (洪水注意報)	氾濫注意水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	氾濫の発生に対する注意を求める段階 【警戒レベル2相当】

※氾濫水の予報

平成17年7月の水防法および気象業務法の改正により、従来の洪水のおそれがあるときに発表する水位・流量の予報に加え、河川が氾濫した後においては浸水する区域及びその水深の予報を行うことになりました。平成29年3月現在では、利根川及び阿武隈川の一部の区間において、氾濫水の予報を実施しています。